東城新聞

統監旗

不及生

▲伊藤統監には母國內閣の變動せられなるを爲め近々の中に歸東の由確定せしとかに候が流石は元老政治家の事とて其の事柄の大小に拘はらず何につけ彼につけて一應其の筋だらけのれ顏丈は出さねばならぬ事柄と相成り居る事と被存候

▲否な歸る歸らぬは御當人の御勝手にて敢て我々の容喙する限りには無御座候乍炎熱燒くが如き昨今の季節にありては其の繁劇なる御老体を白砂青松の邊に御靜養ありて可然と存候もソレに就けても面倒なるは公の往返の煩繁なる爲め其の度毎に一々統監旗の揚げ落しをなさねばならぬ事に御座候

▲もし今假りに之が統監旗にして靈ありとすれば必ず公に對して滿腹の不平を抱き居ると共に行く〳〵は公の桂冠を望み居ることゝ存じ候否な統監旗揚げ落しの煩繁の如きは實の所什麼でも宜く唯統監旗としては公の爲め重大なる任務を負ふことの其の總てに於て屑からざることゝ確く被信候

▲統監旗が南山の山頂に翻々として中空高く飜る其の姿は一見まことに颯爽にして雄壯の如く相見ゆ、偖として鷄林十三道を睥睨するの觀有之候も大切なる御主人公にして之が美觀に叶へる好成蹟を收むるものなきに於てはタトヘ統監旗のみ烈風强雨を冒して高く中空に飜り候ても薩ッ張り飜り甲斐のなきものかと被存候

▲言ふ迄もなく國旗は其の國の威嚴國光を代表せるものに候へば之が威嚴を保ち國光を發揮し行きてこそ始めて其の國旗の眞價現はれ來ること〻存候、然るに公にありては更らに此の國旗の眞價を發揮せず唯無心に飜る統監旗の勇ましさを見ては乃公の事又斯の如しと獨り已惚れ居るやうに見受けられ候が并は大の間違ひにて飛んでもなき御量見かと被存候

▲思ふに統監旗が日本の威嚴國光を代表し任に韓國に來り一ど度南山の山頂に飜つてより爰に二年有餘朝風夕嵐翻々として克く其の大任を盡し來りしは一般我々の多く諒とする所に候而も大切なる御主人公の威蹟のあまり思はしからぬを見ては心より愛想盡き、もはや此の先きとも之が國旗の任務は斷然辭するの外なしと思ひ諦むること〻蔭ながら察し入り候

▲而して公が今回の歸東は可成長かれとかし否な寧ろ再び歸任なきやうッマリ他の適材を以て統監の任に就かしむるやうとは是れ又統監旗の希望かと被存候、さは言へ何れにしても統監旗は早や已に公に愛想を盡かし居り候とは說ふ迄なく南山の松風のさゝやき居る聲に御座候

●外國貿易旬報

（六月下旬關稅局調査）

本年分　旬　前年同期

輸出品價

輸入品價合計	本年分	前年同期
	圓	圓
仁川	四二、三四七	四五、三三〇
釜山	一一、四九九	九五、六九九
元山	一、三六、六三一	一、三六、六三一

輸入超過

本年貿易額の港別左の如し

港名	輸出額	輸入額	計
	圓	圓	圓
仁川	四一、〇六七	四二、〇六九	四三、一三六
釜山	一一七、八一八	二五、一六六	三四、四九〇
元山	二五、一六六	八、〇五一	九、〇五一
鎭南浦	九、六五四	一四、〇一九	二三、〇一九
京城	四、五五七	二、八四四	一七、四一一
群山	八、四九二	一〇、二五五	一八、七五七
木浦	八、五五九	七、五二一	一六、五〇一
馬山浦		一〇、三三五	一〇、三三五
淸津	三四	八、五六八	八、五九二
鎭南浦	二、一七五	四四、二六〇	四六、四三五
京城	四、三四〇	八、五六〇	一二、八〇〇
群山	九、六、三四〇	九、六三五	一九、九七五
木浦	三五七、九六二	三、〇六、六三一	三、四六、八九三
馬山浦			
淸津			
新義州			
計	一、三三、一三二	一、〇四、六六八	二、三七、八〇〇

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

前年一月以降本旬迄の累計

港名	輸出額	輸入額	計
	圓	圓	圓
仁川	一、六七一、一三〇	一、五八八、六七一	三、二五九、八〇一
釜山	四、一九二、九二一	六、〇七四、八三一	一〇、二六六、七五二
元山	一、四四九、一四一	一、九四三、一四一	三、三九二、二八二
鎭南浦	一六、九四四、一四四	二、四七六、三五七	一九、四二〇、五〇一
京城	一、三三〇、七七五	二〇二、五九五	一、五三二、三七〇
群山	一、四三五、四九七	一、四三五、四九七	二、八七〇、九九四
木浦	一、八九八、三九七	一、〇六六、三三七	二、九六五、七三四
馬山浦	六九七、五五八	六七七、七六六	一、三七四、四二四
淸津			
新義州	一八七、七八八	一〇四、六六八	二九一、八五六
計	七、一七、六六〇	一八、六五五、五四四	二五、八七七、二一四

輸出重要品表

品名	本年分	前年同期
	圓	圓
米	二五九、一九五	四二、一一〇
大豆及小豆	五一、四二一	四二、三六九
鮮魚乾魚及鹽魚	二、九九九	二九、四五五
牛皮	六、一九九	四、七四三
蔘		一〇
棉花	八七	一〇、一二三
人生牛	三、一三三	

輸入重要品表

品名	本年分	前年同期
	圓	圓
鹽	一〇、〇二一	一一、一八三
砂糖及精糖	一〇、七四一	二、一六三
清酒	三、二五九	九、五四〇
食油	一六〇	二〇
打石	二、三五五	五、三六五
綿糸	六、五四一	二、九二一
綿布及シーチング	八三、二三六	一、〇五九
生金巾	二〇、一三六	二六、二六一
晒金巾	二六、二四六	二八、八六四
日本綿布	二、二一〇	五、〇九〇
麻布	九、三〇一	一一、四七一
紙類	四八、一五七	七七、一一四
石炭	一〇、二四一	六七、二一〇
煙草（葉卷ヲ除ク）	四五、九一三	二、四四〇
熟蠟	九、五一七	一三、三五一
木材及板（鐵道枕木ヲ併ス）	八、一二四	一二、三六一
セメント及石炭	九、九二〇	一三、八八二

●國產奬勵

需給狀況（續）

農產物

日本より輸入せる果實の中蜜柑は最も韓人の嗜好に投じ今日の狀態にては日本人より韓人に賣行く分寧ろ多額なるに至れり當業者の會によれば昨年中蜜柑の賣行は韓人に七分日本人に三分と云ふ位の比例にして韓人の嗜好は漸次增進の傾向あり其他果實に至ては主として日本人の需用にして韓人には賣行極めて僅少なりと云ふ

韓人の需用としては自國產のものにて十分なるを以て別に輸入を仰の要なしと雖も仁川は十二月下旬より三月中旬までは寒冽に地表氷結し全く蔬菜を見ること能はざるを以て僅かに溫室にて萌したる豆芽を以て之を補ひ馬鈴薯を多量に用ひ居れり而れども外國より輸入したる蔬菜は高價にて未だ韓人の口に入ること能はず主に在留外國人の需用に供せられ相當賣行あり仁川に於ける韓人は自家の需用として主に醬菜（漬菜）を自作するに過ぎず偶々販賣の爲め栽培するものあるも其作高多からず之に反し支那人は居留邦人の需用として盛に蔬菜を栽培せり四月頃より十二月頃迄の間に於て市場に蔬菜を排列し或は行商して居留地の需用に應ずるものは重に支那人なり日本人も亦近來蔬菜の栽培に從事するもの漸次其數を增加し一面觀賞植物を栽培して花時に行商するものあり園藝上の花卉に乏しき仁川に在りては其賣行相當に之あるが如し

新不如歸

（四十七）

小說　篠原嶺葉著

○

「何分あんまり俄然の事で、今日休職になる、明日の朝出發と云ふのだもの、私共も何が何だか唯もう呆氣に取られて、漸く旅準備だけ調へて出發させたので、立たした后で種々な事を思ひ出しては、清さんと二人で泣いてばかり居るのだ。」

と、樣子は今更に涙を袖に拭ふのである。

「だけれど、母樣、何が原因で休職になつたんでせう。」

と、百合子は兄の休職の原因を問ふた。

「うれがさ、何が原因だか突然の事で義祐にも合點が行かんと云ふのだ、けれども大方此間の事件からッて、此間の事件がそれより外には何にも休職にされるやうな理由が無いのだからね。」

「此間の事件が奈何して知れたんでせう、知れる理が無いぢやありませんか。」

「然う思ふのだけれど、休職になつた所を見ると、猶且誰からか知れたんぢやらうと思ふのだ、義祐の云ふのには足拂少佐がれ前の結婚を謝絕つた腹立紛れに、必然讒訴をしたに相違ないと云つたのよ。」

「百合子は結婚を謝絕つたためと聞いて、先刻途中の事を思ひ合して、愕乎と身を顫はした。

「那樣執念深さうな男ですから、それは何とも云へませんわね。」

云つて、何事が案じ出した如く、急に打沈むだが、やがて如何にも困じ果たと云ひたげな調子で、

「本當に私あの人の事思ひ出すと、悲しくなつて胸先が痛くなりますわ、旦那の友人でなけりゃまだしもですが、生憎同じ官衙に勤めてる親友なんですから、これから後も初中終遊びに來るのは、先刻の口振でも解つてるんですもの、其の度に可厭な事を言ひかけられたら、辛い思ひを爲なきやならんと思ふと、全然針の莚に坐つてるやうな心地が爲ます、然うかと云つて些とでも機嫌に障るやうな事でも云つたり爲たりして御覽なさい、兄樣の秘密を旦那樣に告げて、二人の間を裂くやうな事は爲かねん男ですもの、甚麼無理を云はれても腹物に觸るやうに待遇つて居らにやならんと思ふと眞實今から胸が痛いやうな氣地が爲ますわ」

と云つて苦しそうな太息を吐いた。

樣子も清子も、共に同情を表して、

「本當にね前が可愛想だわね。」

「どうにかして取り殺して遣りたい位ですね。」

「丁度鷹に睨まれた小鳥のやうなもんですわ、先刻も然う云ふものです、貴方の實家は僕の舌三寸で生かも殺るも勝手だなんて、私本當に悔しくて堪らなかつたわ。あんまりな言樣だから、勝手にに爲なさいと云つてやらうかと思ひましたけれど、若も西脇義祐は露探だなんて噂を立てられやうものなら第一れ父樣に申譯がなし、西脇家は其きり社會の人と交際の出來ない事に成行くと思つて悔しいのを辛抱したもんですから、眞實悲しくて物が云へなかつたんです。」

何時しか夜の幕は室の隅から閉ち出して、時計は緩く四時を告げた。

百合子は寢へた如く起上つて、母や嫂の留むるを耳にも入れず、匆々長花家へと歸つたのである。

○土耳古金口煙草CD　インペリアル　茶褐色　スポルト　各種

京城代理店　歐米雜貨商　京城本町六丁目　岡野商店

會席　御料理　嬉々々　京城本町座横　電話六三〇番

花は昨日の夢と散り茂る青葉の色深く蝶の羽風も涼しき折柄日々に暑さのいや增せば例年の通りアイスクリームを調製し一杯二杯の出前よりヒヤシビールの御用命まで今回京城明治町大和湯隣の廣庭にてた手輕主義の腰掛けより湯上り浴衣の戻り道さては日中の暑さしのぎなどゝ夕暮から御散歩旁々何卒御入來の上倍舊の御ひいき偏に希上候也

アイスクリーム　ヒヤシビール　開業廣告

京城本町座横　嬉々々　電話六三〇番

十年の血の道　二週間に全治す

子宮病にて下腹腰足引つ痛み下腹より胸先へ差込て正氣を失ひ又は寸白血赤血帶下を流し顏色蒼白き人

血の道（ヒステリー）症にて氣鬱ぎ惻高く夜眠られず、些の事を氣にかけ、こんき薄く、息切れし動氣強き人

逆上頭痛　肩首筋こり、腰足冷

自殺を起し耳なりひへ

大官病血乙道藥　CHUJOTO PREPARED BY TSUMURA

中將湯

月經不順

又は滯り、年頃になつても月經なく又腹に塊出來血ぶくれ、月經前後に下腹痛み其外月經不順より起る諸症なく常ならざる人或は流產雜產等の癖ある人は持藥として服用し慣けば、月滿て安產す

產前

古血の滯り或は日立惡しく、手足の水腫又はしびれ其他凡て子宮病血の道より起る諸病にて種々の藥を用ひて其効なく御困りの人は……中將湯を試よ……

產後

●中將湯は各藥店にあり無くば本舗へ注文の御方は病人容體詳く申●本舗へ本店東京日本橋區通四町目　振替二六〇番　支店大阪大寶寺町堺筋南入　振替三六三番

定價　五週間分弐圓五拾錢　一週間分六拾錢　三週間分壹圓六拾錢　四日分卅五錢　一日分拾錢

本舗　東京　大阪　津村順天堂　本店　支店

花莚疊表廉價販賣　京城長谷川町　東亞興業合資會社

貸地

龍山元平式院前軍司令部拾五間道路左側約五千坪

但し五十坪を一區として割貸

右將來多望の地貸附申度候條御希望の御方は左記へ御來談被下度候也

京城明治町一丁目　森村太郎

京城本町二丁目　林田金次郎

貸地

南大門外吉野町約二千坪割貸高燥にして景宜く水宜く瀛車電車に近く出入に宜し希望の方は御來談被下度候

韓國殖產株式會社　電話七四番

米國製五吋トランシット一臺賣却致候　京城吉野町一丁目

西洋洗濯業　確實にて仕事叮嚀　旭町二丁目理事廳裏　伊丹屋

夏季最良御菓子　クルミプル　紅葉山　雪玉　松葉　泡雪　スワマ　葛饅頭　垂頭

原料精撰

○食パン

右御申込に依り毎日出來上りしもの配達可仕候

京城本町四丁目　和洋御菓子パン製造所　貞島事　寒水堂　電話一四一番

西洋洗濯　期日　並ニ　和服洗張　仕事正確叮嚀　京城長谷川町一丁目卅一番戶　有田組

第3호　1908. 7. 8.

東城新聞

內閣更迭と對外政策

無爲無能の罵聲に包圍せられて漸くに餘喘を保ち來りたる西園寺內閣も終に塵の浦に沒落するの運命となれり、內閣總辭職の報は天霹の如く響き久しく沈衰せる株式市場は頓に活氣を呈し、國民は歡呼の聲を放て之を寿べり、之を以て見るも西園寺內閣が如何に民心の信望を失したるや知るに足らん、後繼內閣の組織に就ては、桂侯に大命下るべし、或は山本井上ならんと未だ確定せざるも、現時の趨勢に於ては桂侯の外此大任に當るものなからん乎、果して桂侯によりて新內閣が組織さるゝとすれば、吾人は双手を擧て歡迎するものなり、桂內閣組織さるゝとするも全般の政策に於ては完全を期すべからざるのみならず、或る點に於ては尠からざる瑕瑾あるべし、然れども西園寺內閣の無爲無能に優るものあるや明けし、殊に吾人は帝國の大陸政策及び、韓國經營の見地よりして桂內閣の組織を歡迎するものなり、之を換言すれば伊藤系の現內閣倒れて山縣系內閣の樹立を以て帝國海外政策の發展に好影響ありと信ずるものなり、聞く山縣公は近時の我對外政策が余りに振はざるを慨して痛切なる警告を西園寺內閣に與へたりと、其對韓經營に關して功績の尠らざるを攻むるや甚だ慨切を極む、果して之を眞なりとせば山縣公未だ老いざるなり、我對外政策の緩慢なる事毎に國民は切齒憤慨せり、此點のみにても西園寺內閣は存立せしむべからず、山縣公の警告は國民の聲なり、天意將さに人心を語るの概なくんばあらず、吾人が山縣系の內閣を歡迎する豈夫れ謂れなしとせんや、

滿州經營の如きも後藤男をして縱橫に手腕を揮ふ能はざらしむる傾ありて、後藤男は常に之を憤懣せりと聞く、帝國の大陸政策は滿韓經營の共同經營によりて發展せらるゝなり、現時の趨勢は此貴重なる融和を缺げる觀なきに非ざるなり、吾人は此點に於ても山縣系內閣の成立を希望するものなり、而して單に韓國經營の點より見るも、桂內閣にして組織されれば東洋拓殖創立に於ても從來の如く伊藤間の融和を計る云々の如き面倒を見ざるなり、勸業銀行設立の如きも速に運ぶべし、要するに帝國の對外政策は伊藤系の內閣に望むべからずして、山縣系の內閣により幾分の發展を庶幾すべしとは國民全般の輿論なるが如し、今や國民膨脹の意氣は邦內に充溢せり、帝國海外政策の發展を期する將さに此時にあり然るに當局の對外政策は萎靡揮はざるの極點に達す此際に於て西園寺內閣倒れ桂內閣成立せんとする蓋し大勢の然らしむる所なり、吾人が双手を擧げて之を歡迎する豈夫れ他あらんや、

●對星樓茶話

△漢城附近に於ける暴徒の大部分を指揮したる巨魁許爲は重罪として平理院に廻されたりと彼は日露戰爭當時より暴徒の巨魁なりき、所謂義森寨を破壞すべく、排日論の急先鋒として少からぬ奔走に力めたりき、彼は慶尙儒生の親分にして慶尙出身の大部分は彼の人物に對して重視したりき、吾人は斯る巨魁の捕獲を以て暴徒鎭壓の一大功蹟と認めざるを得ず

△舊漢城は南北に發展し、新漢城は東西に發達せり

△漢城府尹は其市民に向つて漢城公園を設備する爲めに市民に公園稅として一百萬圓を支出せしむることを餘り難からず、市民の數約二十萬と傳ふ、一年一口一圓とせば五年間にして完收し得べし、而かも其公園によりて收入すべき金額は實に幾倍と爲し得べき方法あり

△韓國人口の減衰は赤痢及び疱瘡其主要なる部分を占む

△韓人の血脈より仕官と政權を除外すれば全く骨と皮とのみ

△漢城人事中最も異彩を放ちたるは元老金允植氏が文明の洗禮を受けたためにシルクハットを被れることなり、慶善宮の財產が急激に膨脹したることなり、永宣君が妓生を呼べることなり、前宮相と新宮相と久しき親交を破れることなり

△暴徒は確かに下火となれり、然れども是れ慨安に非ずして倦怠也

△賣下者儒生は慶尙の產物也、行商及一揆曾尼と內宮は江原の產物と謂ふべし、敎徒は黃海及平安に於て尤も猛烈の性格を表はし、獵師は咸鏡の特產也、濟州の馬と江華の石、爵陵の木とは韓の富源たるを失はず

東京電報

▲連絡船午前發廢止

鐵道廳は關釜連絡船午前双方より發航の分共に廢止する事に決定せり（六日發）

釜山電報

▲日高秘書官の通過

日高內大臣秘書官は今朝の急行列車にて京城に向ふ（七日發）

雜報

●副統監の兩宮參內　曾禰副統監は昨日午前十一時より國分佐竹兩秘書官を從へ昌德宮に參內し皇帝に謁見して歸任服の意氣は邦內に充溢せり、帝國海外政策の發展を期する將さに此時にあり然るに當局の對外政策は萎靡揮はざるの極點に達す此際に於て西園寺內閣倒れ桂內閣成立せんとする蓋し大勢の然らしむる所なり、吾人が双手を擧げて之を歡迎する豈夫れ他あらんや、

●後藤男と仁川　後藤男は來る九日京城を經て下仁する筈なるが目下同男歡迎につき信夫理事官富田民長の間に協議中なるを以て何れ盛大なる官民歡迎會を催す事となるべし

●勸業博覽會開設の議　韓國政府は明治四十五年東京に於て開設せらるゝ日本大博覽會に參加する準備として隆熙四年度京城に勸業博覽會を開設の議ありと云ふ

●宮內府の新聞禁讀　宮內府中庶務課調査課及內藏院の官吏は今回新聞紙閱讀を禁ぜられたりとの說あり曾て露國宮中の諸官が新聞禁讀の命を受けたることありしが閔大臣小宮次官がまさか露國式を眞似られたるにも非るべく甚だ不可解の事なりと云ふものあり

●城壁處理委員會決議　既報一昨日內部に開催せし城壁處理委員會は東大門曲壁を取毀して石材を漢城衛生會に利用せしむる件、東大門側なる五間水門を江川凌池のため取拂ふ件、平安北道東林鎭城壁を京義鐵道改築のため取毀つ件の三問題を何れも原案通り可決せり因みに右の工事の第一は漢城衛生會に於て第二は內部工事局にて第三は鐵道管理局に於て處理する筈なりと云ふ

●財產引繼の進捗　宮內府所管財產國有引繼は其の事務餘程進捗し英親王宮所屬のもの及び判理局農林課所管のものは大略引繼を了し他も着々進行しつゝありて本週中には全部引繼濟となるべしと云ふ尙ほ既報せし慶善宮より度支部に引繼ざるる書類中不足なりし舊文記は一昨日全部を提出し來れ因みに佐々木事務官は昨日午後より宮內府に出頭して引繼事務を處理し居れり

●財產整理局官制の內容　今回宮內府所管及び慶善宮所屬の財產を國有に移されたる結果度支部に特別の機關を設けて國有財產管理に關する事務を處理すべき事は既報の如くなるが愈々財產整理局を新設する事となり一昨日閣議を經昨日の統監邸に於ける大臣會議にて審議したる筈にて其の內容は度支部次官主任となり以下の職員は專任高等官二名及び數名の兼任高等官並に數名の判任官を置き國有民有の區別其の他國有財產に關する一切の事務を處理する事となるべしと云ふ

●許爲の護送　既報の如く憲兵隊に逮捕中なりし賊魁許爲は昨日午前十時憲兵隊より人力車に乘せられ兒玉伍長四名の憲兵と共に護送して平理院に引渡されたり

●賊魁李康年の護送　清風附近の戰鬪に於て賊魁李康年を逮捕せるは既報の如くなるが去る五日忠州より京城憲兵隊に護送せられつゝあるが八日頃到着直に豫審に附せらるべしと云ふ

●賊魁李康年の事　同人は慶尙北道開慶の兩班にして儒生なり學を江原道柳麟錫金羅道崔益鉉等に受け明治二十七年の騷亂に當り蜂起を組み柳麟錫に應じたるも一敗地に塗れ職祿を奪んで得ず閒々十年其鄕居れり

△會寧地方は賊徒出沒の爲め農民の耕作上に及ぼす影響は賊徒の出沒なき爲め農民は例年の通り播種耕作に從事し更に影響無く△三水郡三水邑內外及最寄村落に於て總戶數八十七戶の內五十五戶は一月十、十一日の兩日大討伐の際燒失其損害總額二萬一千余圓にして爲めに該被害者等は仲坪場或は寒村孤落の親戚の內に避難し未だ農業に着手せず播種耕作に着手せるもの僅かに十四五戶に過ぎず而して郡內各村落を調査するに各洞通して賊徒の爲め避難せるもの平均一二戶宛にして重に一進會員同親戚等のものなり以上の如くなるを以て農民の耕作上に及す影響は莫大にして平年に比し二十日余の耕作に遲延を來したりと云ふ

△又元山、德源並に安邊の各地方は一般に靜穩にして隨て民心の動搖なく孰れも各自生業に安んじ農民は終日農業に逐はれ播種耕作等に些の影響なく平年に異るなしと云ふ（未完）

●愛國婦人會鎭南浦委員部狀況　愛國婦人會鎭南浦委員部長秋本理事官夫人より此程鎭原本部長宛報告したる會務の要領は左の如し

▲第一回會務擴張　昨年九月始て官民夫人中より役員を撰定し會務擴張會員增募に着手し在來會員百十三名の外三百二十名を得同月末第一回總會を開き頗る好成績を得たり

▲地方婦人會の併合　鎭南浦にては地方婦人慈善會なる團體ありて役員會員は概ね愛國婦人會員なるを以て兩會兩立の必要なく茲に兩會一致して慈善的方面に活動することゝなり本年一月慈善會は基金建物（病室遺所へも出願し軍隊憲兵或は警察署所在地並に附近の賊情等に付て問合すもの屢々ありと云ふ

●小學校の上棟式　京城民團立第二尋常高等小學校は南大門側に新築中なりしが本日上棟式を擧行すべしと

●道書記官の交迭　慶尙北道書記官鹽川一太郎氏は京畿道書記官に京畿道書記官竹內磐太郎氏は慶尙北道書記官に轉任する事に決定し今明日發表せらるゝ筈

●澤田道書記官の來着　千葉縣東葛飾郡長なりし澤田乙三氏は一昨日來京し昨日內部に出頭して新任の挨拶をなせり

●韓官任命　六日附

農商工部書記官　洪在夏
工業傳習所技師　安衡中
漢城府事務官　金宇鉉
陸叙奏任官三等　今村兎毛
任警視叙奏任官三等　陳軍吉

●民團藥劑の解職　漢城病院藥劑員土錫全羅道崔益鉉等に受け明治二十七年の騷亂に及ぼす損害は平年に比し約一割減の影響（軍需品を全部鐵道にて輸送せしめんと陸力學部顧問官朴成圭氏の難儀は本日午後三時より南大門內メンジスト教會に於て執行することゝなれり

●朴顧問官の難儀　一昨日死去したる

●道路寄附と賞與　蠶に小學校道路敷地五十坪を民團に寄附せる東京淺草區東三筋町隱本榮一郎へ銀杯一個、並に小學校教育費に金一百圓を寄附せる鐵道管理局長大屋權平氏へ木杯一組を何れも其賞として賞勵局總裁より授けらる

●近事片々

▲桂侯　內閣を組織するに於ては曾根子を敵相に據へんとの說頻に持上るも蓋想像耳

▲伊藤　公樞院議長となり曾根子統監となるの說が眞相に近しと雖判明の期近にあり

▲一度　踏み出す上は後に退かぬと決心せる曾根子統監として其決意を貫くが當然也

▲桂內　閣成立すれば曾根子の統監は先適當と云はざる可らず閣臣に列するは不可也

▲統監　としての曾根子は伊藤公と較べて如何あるべきか其實力に於て餘り遜色なし

▲曾根　子の遺口は伊公の如く華麗ならざるも浮華の態なし却てヨボ統御に効あらん

▲政策　巧妙なる點は更に無るべきも却て堅實の地歩を占ひる點に於て優る者あらん

▲曾根　子に今少し政略なる者あらば申分なしと云ふ者あり然り其が子の領分ならん

▲小智　を弄で失敗するよりも寧ろ機變を用ひざるが怪我なし唯所信を斷行する勇まれ

▲曾根　子韓國經營に於ては未製品なり茲暫くは試驗中果して能く料理得るや否や

▲人言　を容るゝ雅量は子の長所なり能く之を資錄し民間有志の意見をも徵せよかし

▲後藤　內閣の組織に就て追々新しき顏觸出現せり一木喜德郎奧田義人等其最なる者

▲最も　意表なるは後藤男の大藏大臣也此際財政の難局を切拔る或は適材に非ざる乎

▲桂侯　の苦心する處も藏相に其人を得ることにあらむ後藤男の入閣甚だ妙ならん乎

一說　には寺內と後藤同盟して西園寺內閣を壓迫せしは後藤入閣の野心より出づと

▲財政　の整理は目下の最大急務此局には新人材を入れて積弊を更に一掃する要あり

▲田尻　男の呼聲も出て來る藏相の椅子は玆暫く其混沌たるべし其中に人材現出せむ

▲內務　は小松原大浦清浦等の呼聲高けれども何れも適任と云ふ可らず採材最も肝要

▲原敬　に比して皆遜色あり其中清浦人格稍大なるも內務の適材ならず大浦亦不可也

▲桂侯　大石正巳大養毅等を擧げて閣員となさば或は妙ならむ大浦小松原に優る萬々

▲寺內　正毅を內務に移し石本若しくは字佐川を陸相とする也面白からひと云ふ者有

▲地方　政務の擧ると擧らざるは內相其人の威望如何に依る近時益々此傾向顯れ來る

▲外務　の小村は先つ適材也我外交家には乍遺憾小村以上の者を未だ見出さず心緩し

▲郵築　井勝等は未だ外相たるの力量も材幹もなし遺外公使が相當の役目なるぞかし

東京新聞

內閣更迭と對外政策

（前欄續）

此點に於ても西園寺內閣は存立せしむべからず、山縣公の警告は國民の聲なり、天意將さに人心を語るの概なくんばあらず、吾人が山縣系の內閣を歡迎する豈夫れ謂れなしとせんや、

滿州經營の如きも後藤男をして縱橫に手腕を揮ふ能はざらしむる傾ありて、後藤男は常に之を憤懣せりと聞く、帝國の大陸政策は滿韓經營の共同經營によりて發展せらるゝなり、現時の趨勢は此貴重なる融和を缺げる觀なきに非ざるなり、吾人は此點に於ても山縣系內閣の成立を希望するものなり、而して單に韓國經營の點より見るも、桂內閣にして組織されれば東洋拓殖創立に於ても從來の如く伊桂間の融和を計る云々の如き面倒を見ざるなり、勸業銀行設立の如きも速に運ぶべし、要するに帝國の對外政策は伊藤系の內閣に望むべからずして、山縣系の內閣により幾分の發展を庶幾すべしとは國民全般の輿論なるが如し、今や國民膨脹の意氣は邦內に充溢せり、帝國海外政策の發展を期する將さに此時にあり然るに當局の對外政策は萎靡揮はざるの極點に達す此際に於て西園寺內閣倒れ桂內閣成立せんとする蓋し大勢の然らしむる所なり、吾人が双手を擧げて之を歡迎する豈夫れ他あらんや、

東京電報

▲連絡船午前發廢止

鐵道廳は關釜連絡船午前双方より發航の分共に廢止する事に決定せり（六日發）

釜山電報

▲日高秘書官の通過

日高內大臣秘書官は今朝の急行列車にて京城に向ふ（七日發）

雜報

●副統監の兩宮參內　曾禰副統監は昨日午前十一時より國分佐竹兩秘書官を從へ昌德宮に參內し皇帝に謁見して歸任服の意氣は邦內に充溢せり、帝國海外政策の發展を期する將さに此時にあり然るに當局の對外政策は萎靡揮はざるの極點に達す此際に於て西園寺內閣倒れ桂內閣成立せんとする蓋し大勢の然らしむる所なり、吾人が双手を擧げて之を歡迎する豈夫れ他あらんや、

●後藤男と仁川　後藤男は來る九日京城を經て下仁する筈なるが目下同男歡迎につき信夫理事官富田民長の間に協議中なるを以て何れ盛大なる官民歡迎會を催す事となるべし

●賊魁李康年の事　同人は慶尙北道開慶の兩班にして儒生なり學を江原道柳麟錫金羅道崔益鉉等に受け明治二十七年の騷亂に及ぼす損害は平年に比し約一割減の影響（軍需品を全部鐵道にて輸送せしめんと陸力學部顧問官朴成圭氏の難儀は本日午後三時より南大門內メンジスト教會に於て執行すること

●道路寄附と賞與　蠶に小學校道路敷地五十坪を民團に寄附せる東京淺草區東三筋町隱本榮一郎へ銀杯一個、並に小學校教育費に金一百圓を寄附せる鐵道管理局長大屋權平氏へ木杯一組を何れも其賞として賞勵局總裁より授けらる

●近事片々

▲桂侯　內閣を組織するに於ては曾根子を敵相に據へんとの說頻に持上るも蓋想像耳

▲伊藤　公樞院議長となり曾根子統監となるの說が眞相に近しと雖判明の期近にあり

▲一度　踏み出す上は後に退かぬと決心せる曾根子統監として其決意を貫くが當然也

▲桂內　閣成立すれば曾根子の統監は先適當と云はざる可らず閣臣に列するは不可也

▲統監　としての曾根子は伊藤公と較べて如何あるべきか其實力に於て餘り遜色なし

▲曾根　子の遺口は伊公の如く華麗ならざるも浮華の態なし却てヨボ統御に効あらん

▲政策　巧妙なる點は更に無るべきも却て堅實の地歩を占ひる點に於て優る者あらん

▲曾根　子に今少し政略なる者あらば申分なしと云ふ者あり然り其が子の領分ならん

▲小智　を弄で失敗するよりも寧ろ機變を用ひざるが怪我なし唯所信を斷行する勇まれ

▲曾根　子韓國經營に於ては未製品なり茲暫くは試驗中果して能く料理得るや否や

▲人言　を容るゝ雅量は子の長所なり能く之を資錄し民間有志の意見をも徵せよかし

▲後藤　內閣の組織に就て追々新しき顏觸出現せり一木喜德郎奧田義人等其最なる者

▲最も　意表なるは後藤男の大藏大臣也此際財政の難局を切拔る或は適材に非ざる乎

▲桂侯　の苦心する處も藏相に其人を得ることにあらむ後藤男の入閣甚だ妙ならん乎

一說　には寺內と後藤同盟して西園寺內閣を壓迫せしは後藤入閣の野心より出づと

▲財政　の整理は目下の最大急務此局には新人材を入れて積弊を更に一掃する要あり

▲田尻　男の呼聲も出て來る藏相の椅子は玆暫く其混沌たるべし其中に人材現出せむ

▲內務　は小松原大浦清浦等の呼聲高けれども何れも適任と云ふ可らず採材最も肝要

▲原敬　に比して皆遜色あり其中清浦人格稍大なるも內務の適材ならず大浦亦不可也

▲桂侯　大石正巳大養毅等を擧げて閣員となさば或は妙ならむ大浦小松原に優る萬々

▲寺內　正毅を內務に移し石本若しくは字佐川を陸相とする也面白からひと云ふ者有

▲地方　政務の擧ると擧らざるは內相其人の威望如何に依る近時益々此傾向顯れ來る

▲外務　の小村は先つ適材也我外交家には乍遺憾小村以上の者を未だ見出さず心緩し

▲郵築　井勝等は未だ外相たるの力量も材幹もなし遺外公使が相當の役目なるぞかし

明治四十一年七月八日　（明治四十一年七月八日　第三種郵便物認可）

南山の自然主義

緑陰深き感慨ありとやら、實に此頃の南山は彼の自然主義とやらの實劇場とはなりぬ、樹間涼風の吹き來る所には何れも一對の男女居らざる所なく、而も嬌語喃々として蜜の如き情話ならざるはなしと、記者もまた其實劇の有様を見ばやと、麥藁帽子を阿彌陀に被りて汗たら〳〵と流しつゝ美人茶屋の背後より徐々として登り行きぬ、時に木の葉繁く茂りて涼風颯と吹き來りて体ひに恰當の處あり、幸ひ木根ありて恰も我を待つものゝ如し、やをらそこに腰を下して先づ一ぷく、山下の景色を恍惚と眺めつゝある中に睡氣催し來るまゝに木の根を枕に華胥の國にと遊びける、ふと目を醒ませば微かに男女の囁語する聲ぞ耳に入る、偖自然主義の本体これなりけりと、耳を貸てゝ聞けば女の聲として

「妾、どうしても日本に歸らなくてはならないのよ、それが變なのよ不意に父様が突然にそう仰るのよ、どうも京城に置ては風儀が惡くなつていけないつて、妾思ふに父様が貴君と妾の關係をお知りなすつたんじゃないかと思ふわ、でも如何ですよ、」

と心配さうに語れば男の聲として

「或は然うかも知れません、僕も思ひあたる節もあるのです、果して父様が我々の關係を知りなすつて貴女を日本に返すとすれば貴女はとても近き將來に再び京城に來ることは六ヶ敷でしよう、さうすれば貴女はどうなさるお積りです、僕の如きは最早願るに足らないと云ふのですか、貴女の御決心によりては僕も亦考があるのですよ」

と些と荒々しく言へば女は歎息したる如き聲にて

「貴君は妾をさう節操のないものと御思召すの、妾は假令父様が何とおつしやても貴君と別れる考へはないわ、それに就いて御相談をしたいと思て貴君に來て頂いたのよ、それを妾が日本に歸れば貴君を顧ないなんてそれはあんまりひどいわ、貴君はまだ妾の心が判らなくつて、若しも貴君が眞個にさう妾を見て居られるなら全く心細ひわ、ねゑ貴君眞個に考へてくださいよ」

男は稍々決心したらしく言ひ放つた、

「僕も日本に歸りませう、なに東京に行つて會社にでも出れば困りゝしない、今の若い女の言葉は眞個でしよう、ねゑ」

と念を押されて女は蹤意外と云ふ調子にて

「あら、貴君も日本に歸りなさるの、こちらの御役もやめて、それはあんまり氣早いわ」

と女は男の決心の確きに堪へ困て居るらしい風である（まだある）

●仁川の魔窟

仁川は近來メッキリ不景氣となつたには相違ない、併し不景氣と助平心といふ奴は兩立しないものと見る此の不景氣〳〵といふ嘆聲を聞くに拘はらず同地の小料理屋（小料理屋といふと名は宜いが實は下等なる淫賣屋なり）の繁昌はドウして非常なもの、足一と度淫賣の魔窟に踏み入れたものは恐らく一驚を喫するであらう、燒くが如き昨今の日中に一日の勞働を終はりて薄暮夕風涼しきころを逍遙する者は、試みに踵を回らして新町より佛國教會堂の下通りを歩いて見玉へ例の白粉コテ塗りの居ッ鉄淫賣がヅラリと表の格臺にまるで四斗樽に荒筵をヒン張いたやうな大きな尻を据へて「チョイト〳〵寄つていらつしやい」とか「チョイトマー樣子の宜いお方」とかいろ〳〵の文句を並べて客を曳くのに除念がないのである否な夜泉の間は左程でもないが八時を過ぎ九時と移り十時と經つに從て胸に一物ある助的の客の數はダン〳〵加はり果ては夏の夜の短かきにも拘はらず二時三時頃となるとソレは〳〵は非常な客で彼の調子も怪しき三味線の音は聞くも古めかしいお定まりのサノサ節かラッパ節の俗謠に和して四隣の人の夢を驚かさん許りであるのみならず中には色餓鬼の男と女とが相擁し相抱きて痴話喃々今にも風となり雨とならんかとの醜態を演じまじき程であるサテ此の教會堂下通りの淫賣屋の家の數は總計十五六軒もあらうかいつれも今では公然たる娼家で白昼ですら客に淫を鬻いで居る有様ナントいまはしい次第ではあるまいか而も此の内其の筋の眼を晦まし無鑑札で營業をして居る家がイクラも有る現にある人の話に依ると先月新町から佛國教會堂下通にいたる迄開業した淫賣屋の數が十數軒あるが其の内正當に其の筋より營業の許可を受けたものはホンの三四軒であるとかのことである、併しソレ等の事はドウでもよいとして茲に新町一丁目に〇〇〇屋といふ非常に奸惡な小料理屋があるが其の主人といふは世にも稀なる因業な惡漢にて此れ迄自分の家に抱ゐたる可憐なる酌婦に對して人位惡い事を働らいたか惡辣な行を爲したかは殆んど話しの外であるがソは何れ精探の上紙上で素ッ破抜くことゝしやう

●永登浦より

當地に於ける工業界の厥兒を報ぜんに大塚醬油釀造所は益々發展して〳〵あるが去る四月鐵道管理局より運賃割引の特典を得たりし各地よりの注文非常に多く大に販路の擴張に努め居れり志岐組の煉瓦及瓦製造工場は毎月優に一千萬個の製出をなすを得將來大に有望なるが如し度支部の分工場土管製造所は稍々大規模なる製品の輸出は比較的少なけれど若し盛んに製出し之を他地方に輸出するの時に至らば他の製造所は多大の打撃を蒙ひるに至らん尚ほ農業は播種期に際し降雨なかりしかば自然播種も遲延せしも此頃の降雨にて多少の見直す所ありたり

龍山榮町（電話二元番）
藥田淵藥局
藥劑師 田淵芳太郎

アサヒビール

●蓄音器 各種 新音譜 各種 新荷着
東京三光堂 蓄音器韓國總代理店
京城本町 辻屋
本店電 二四八
支店電 三六六

謝近火御見舞
工藤藥館
太平町一丁目

賃貸或は賣却
京城鐘路通り一丁目
一貳層洋屋及韓式住宅
造作は專ら日本式使用の處今回移轉すべきに付賣却可仕候間御望の方は御來談被下度候
也
鐘路 精成組事務所

提灯製造
並張替及瓦斯燈書替へ
弊店は業務確實にして仕事叮嚀なり
京城本町理事廳前裏通
藤井提灯廛

第二回荷着
一蚊帳 一久留米絣
一綿類 一備后縞絣
一浴衣地 一布團地
珍柄種々アリ
京城明治町一丁目（電話二六一番）
卸商 唐川商店
鄙山旭橋通 唐川支店

月刊 朝鮮
毎月一回發行 定價一錢 郵稅一錢
一切前金
京城本町二丁目 日韓書房

●不正の葡萄酒

南大門通り二丁目、金城鑑方滯在中見瀧蔵は去る一日本町六丁目古物商鶴若熊次郎より著寶葡萄酒二打を三圓六十錢にて買求めたるも自宅に持ち歸りて後ち其の餘りに安價なる故念の爲め栓を抜きて試みに飲みたるに這は以て外の粗惡品にて到底飲料に適せざるより熊次郎方に赴きて相當價格にて買戻方を交渉したるも熊次郎應せず仍て己むを得ず發火の原因は意外の過に潜み居れすと云ふ者あり兎も角も聞くが儘を此に記し置く

相川巽手地續きの地主某之那へとの間に紛轉を惹しかねることもあり夫れが爲め支那理事府を煩はしたることもありと云へば或は事府の方にて相當の賠償を爲すべきに付き相川方は

●中元御進物用品色々取揃居り申候
京城本町三丁目（電話二十七番）
京城本町一丁目（電話八二七番）
●羽根蒲團 ●香水 ●石鹸 ●其他雜貨類
●ハンカチーフ
●シャンパン ●葡萄酒 ●ブランデー ●ウヰスキー ●リキュール
●洋菓子 ●ビスケット ●ビール ●平ノ水 ●サイダー
●シガ ●埃及烟草 ●ビール化粧箱入 ●商品切手
亀屋商店 亀屋支店

廣告
●天然痘
京城長谷川町一丁目二十番地小林榮藏方里村ヒサ（ヒサは六日天然痘に罹り青坡病院に送られたり）
●天氣豫報（自七日午後六時 至八日午後六時）
七日午前六時各地氣象概況
東の風吹き南部は發天其他は晴天なり
はれ

●後藤新平男に學ぶ可き點……法學博士……新渡戸稻造
●名士と記者の人氣焰……（一讀忽ち目を醒す）……野依生
●吾輩の見たる安田と倉……男爵 石黑直惠
●どうすれば在清日本人は發展するか……上海 仁原篤介
●實業道德の改善と涙を以て吾徒の計畫……島田三郎 高田早苗 太田黑重五郎 鎌田榮吉
●青年の元氣恢復策……法學博士 新渡戸稻造 白牡丹 白木屋 天賞堂 大丸 松屋店員
●デパートメントストアと小賣商の影響……慶應義塾大學教授 貝賀勝重 三越呉服店專務 日比翁助
●吾輩の好む青年（談話者）……山本条太郎 澁澤榮一 森村市左衛門 井上角五郎
●余の實見せる英國の紳士道と獨逸……商人 新渡戸 神戸 歸朝者 一
●今後人を使ふに最も注意すべき最大要件……大倉喜八郎
●僕の好む先輩（自己の缺點を補ふに資ならざる先輩を以て新智識を吸收せよ）……野依秀一
●商業道德改善大急務……森村市左衛門
●余の見る米國人の廣告活用法……新聞雜誌記者 濱田四郎
●新聞雜誌革新の急務……主張
●米國經濟界の前途……在米國 市川久孝
●五十年間の一貫した吾輩の處世主義……男爵 澁澤榮一
●金錢に見積られる不親切の實例……三山生
●郵船會社の決算報告を評して株主に警告

改題第三號
毎月一回 七月一日發行
定價 一部 十錢 郵稅 一錢
日本商業界改題 日本一の實業雜誌 三田商業研究會發行
實業之世界

廣島市天滿町 海陸物產問屋 海外輸出商 吉野兄弟商會
廣島市天滿町 乾物海產內外雜穀卵問屋 蒐集物商 吉野久次郎 電話五八八番 電信略號（ヨシイ） 商號吉野
廣島市天滿東詰 海陸物產問屋 吉野久次郎 電話三九〇番 電信略號（ヨシキ） 吉野支店
廣島市青物市場 海產物依托問屋 乾物鑑識商 吉野萬之助 電話七五七番 電信略號（ヨシコ） 吉野出張所
韓國京城南大門通二丁目八番戶 海產物依托問屋 濱物類卸商 吉野支店

發賣元 共同社 東京芝區三田四國町二ノ三 郵便貯金振替口座三三四 電話新橋四八八〇 賣捌全國

西宮の樂の述懷（廿三）

◎尾崎さんと面會

前にも咄をした福澤塾の二人の書生さんの内の其一人と云ふのは外でもありませんが今の東京市長の尾崎さんでムします、ソレで尾崎さんとは並外れて御親意の仲でしたから私が吉原を後にして此の仙臺へ參つて仕舞つたので其後打ち絶えて仕た目に掛ることが出來ずに居りましたが丁度演說會が濟んでの其夜或料理屋で其黨派の方々の懇親會がありました其席へ私もた酌に聘ばれて出ましたが吉原を喰ひつめてコンナ片田舍へ流れて來て居るので何んだか尾崎さんに逢ふに掛るのが氣がひけてなりません成丈尾崎さんや加藤さんに見つからないやうにと隅の方にばかり居りましたが併し腹の中の嬉しさといふものは何んとも言へませんでした、唯もうソワ〳〵と許りして居てれ客樣に咄掛けられても其返事がトンチンカンで平素の私とはまるで違つたやうに自分ながら思はるゝのです、サテ其の晩の宴會といふは普通とは違つて何となく景氣づきソレは大變盛んで何時散會になるかと思はれる位でしたが其の內に尾崎さん抔はれ客樣の事故頃合を計らつて席をね起ちになる私はコヽでれ目に掛つて置かなきア又何時た目通りが出來るか出來ないか判らないと思ひましたので玄關口にたいでになる後から送り出す人混を駈け拔けて尾崎さんが靴をねはきなさらうとして居らつしやる其側に往き「如何もれ久しふムいました」とヤットの思ひで言葉をね掛け申すと烏渡たふり返りなさいましたが暫時は默然て何か考へて居らつしやるやうな御樣子なんですソレも決して無理はムいません、吉原に居た頃の私と仙臺へ來てからの私とはスッカリ樣子が變つて居りますから突然に御覽になつたのでは誰であつたかね判然にはならん筈ですッコで私は「見忘れなさいました

か……らくでムいます」といつて私が持前の高笑を致しますとヤット判然になつたと見ゆ「アヽらくか……如何も此れは意外ちやつた實の所餘り意外ちやつたのでッヒ見忘れて……如何も濟まなかつたれ前には種々と咄したい事がある明日の午前は幸ひ宿に居るから尋ねて來るが宜いゆつくりと久濶を溫め樣……キット尋て來いよ待つて居るから……」とねつしやつて例のゆつたりした窘子で俥に召してお歸りになりました私は嬉しくつて〳〵堪らず去だ宴會も濟まない內に暇塡さんに逼つて無理かられ暇を頂き無我無中で我が家に歸つて參りまして尾崎さんの所へ持つて行くた土產を那れか此れかと考へ自分で出掛けてソレを整へましたが其の後はまつたくのところ落ち〳〵眠らずいろ〳〵の事を考へましてトウ〳〵考へ明かしましたが翌朝は早々身仕度をして俥でもつて出掛けました（つゞく）

京城本町壹丁目 ヒノサキ商店 電話壹百四十六

營業品目

▲和洋雜貨類▼
○和洋文房具卸小賣
○測量製圖器械尺度類
○最新式眞筆謄寫版發賣元

▲諸官衙用達▼

白井石材大販賣
京城永樂町三丁目

大賣出廣告
正札より
一割引ひき
開店祝七週年之爲平素御愛顧報大安賣仕候間陸續御來店之程伏て奉願上候
自六月廿日 至七月十日
京城明治町一丁目
田中靴店

御紋 ものし しみれとし
上繪 萬染物洗張所
西洋 せんたく
京城太平町一丁目
黑沼工場

茶屋 京城五丁目 富士の里

▲アサヒビール
サッポロビール
合同三週年紀念として弊社釀造各種の麥酒に對し來る十日より抽籤法を以て大々的景品附賣出仕候
大日本麥酒會社
京仁販賣組合

▲ビール
アサヒ
サッポロ
ビール大景品付賣出し

祝創刊
運輸の事業は正確にして殊に敏速なるを尙ぶ
永登浦 宗島運送店

檢査濟
氷卸販賣
益田氷庫
販賣所 旭町一丁目（電七四五番）南山町掬翠樓前

日本澤庵
味噌醬油製造
乾物荒物鑵詰
銘茶食料雜貨
京城本町五丁目
漬物問屋 大上商店（電話二五一番）

日本各銘酒
各種ビール
精米卸小賣
本町六丁目
田中支店
電話七六四番

和洋雜貨 文房具 測量製圖器械 洋家具
東京名會社 玉屋商店 直輸入品及自製品 韓國特約販賣店
奈良 梅園製墨 賣は便利なる御相談に應ずべし 韓國代理店
東洋インキ株式會社特約販賣店
大吉インキ及バラ齒磨粉特約販賣店
專賣特許 東京 鐵毛筆謄寫版韓國一手特約販賣店 日韓貿易株式會社一手代理販賣店
日本政府 煙草特約販賣店
東京 日本麥酒株式會社專賣店
大阪 瀨盛春堂製筆韓國特約店
足袋製造 不易糊特約販賣店
大阪毎日新聞社 朝日新聞社 京仁特約販賣店
東京大阪數十書籍店特約販賣
仁川本町二丁目 町田文本店（電話四十五番）

同 本店向へ 總支配人 中川喜七郎 主任 町田政太郎
町田書籍 新聞雜誌部（電話四百卅一番）

京城本町三丁目 主任 管野 町田文支店 主任 武井
同 二丁目 主任 山本幸太郎 林堂（電話一二六番）
同 二丁目 主任 末定佐野勝次郎 新聞雜誌掛 達部（電話百七十五番）
同 文林堂內 用 古井永川町 矢上正三 貞次 善市松 合田文次郎 町田文次郎

右員一同車輪の働きを以て勉强可仕候得不係多少御用命被下度奉願候

書籍文房具 新聞雜誌部擴張
營業主 平田書籍 新聞雜誌部
本町二丁目三井物產向へ
文林堂（電話百七十五番）

弊店京城仁川に於ける日本人書店の開祖にして開業拾有九年の老舗なり今や日刊新聞紙京城のみ一千有餘雜誌一千有餘の配達數を算するの盛況を告げ益々繁盛を極むるの光榮ある今日あるを得たるものは各位の特別なる御引立、弊堂の正直と强の實を愛せらるゝの外ならざれば水く雜貨部の兼業とするは愛顧諸君に忠實なる所故に無之候得ば今回本町三丁目平田書籍新聞雜誌部とも合併し同時に營業益勉强可仕候得ば倍舊の御愛顧を蒙り度奉願上候也

謝近火御見舞

昨近火の節は早速御見舞を辱ふし難有奉拜謝候混雜中貴名伺漏も雖計乍略儀紙上を以御禮申上候敬具

七月五日 西小門通り シンカー裁縫機械會社

龍山老松町 入院 隨意 上田病院 電話一二八番

原金旅館
支店 京城南山町（電話一〇七番）
本店 仁川理事廳通（電話三二番）

開業御披露
揚弓場
並に○コーヒー、紅茶 其他○氷水一切○
京城旭町三丁目 花遊亭

◎疊製造業並に表替
京城永樂町一丁目（赤門前）
横井疊製造所

襖張替
表裝一切
京城本町五丁目
表具師 竹堂

日本郵船株式會社
瀛船仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕會（電話十番）
京城南大門通 巴商店（電話三〇六番）

●釜山長崎門司神戸行
山東丸 八月 二日 後 時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行
第一オハヨ號 釧路丸 月 日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行
高砂丸 七月廿三日 後一時出
山東丸 七月廿一日 前五時出
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸 八月 六日 後一時出
●鎭南浦行
第一オハヨー號 後三時出
●釜山出帆、元山灣津、浦鹽行
弘前丸 七月 廿二日

御乘船ノ際一稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ

●新聞料 ▲枚金二錢▲一ヶ月前金廿五錢▲三ヶ月前金四錢▲六ヶ月前金貳錢▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五錢字十九字詰一行五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太 京城西署西小門通
發行所 京城新聞社 電話六六三番